

第10回滋賀県フットボールカンファレンス2021

技術委員長 梅田 英幸

カンファレンスの目的は、滋賀県のサッカーに関わる者（関係者、選手、指導者、審判等）が一堂に集い研修することで、滋賀県のサッカーの発展に寄与することです。2年前から、隔年で開催しているカンファレンスが、12月4日（土）にオンラインで開催されました。

- 内容
 - ①「育成年代における活動指針」
 - ②「技術と審判の協調」
 - ③「滋賀県TSG報告」
 - ④「スポーツ医学より」
- ① U-17日本女子代表監督であり、なでしこジャパンコーチの狩野倫久氏による「育成年代における活動指針」についての講義でした。JFAのTSGによるデータの解説や育成年代の指導に必要な内容について、大変貴重なお話を聞くことができました。
- ② 「技術と審判の協調」ということで、滋賀県出身である1級審判員の村井良輔氏からルール改正についての講義がありました。特にハンドリングをはじめとしたルール改正についての疑問が解決しました。映像も多く、分かりやすい講義で大変好評でした。なお村井氏は、昨年J1リーグ副審100試合を達

- 成されました。
- ③ 県サッカー協会技術委員の森村紀夫氏による「滋賀県TSG報告」がありました。TSGとは、テクニカル・スタディ・グループの略称で、
 1. 現代サッカーのトレンドを知る
 2. 滋賀県の立ち位置の確認（各年代）
 3. 今後の示唆
 という目的があります。昨年度までの提示や今年度の取り組み、成果と課題が報告されました。そして、2022年度に向けての提示がありました。
- ④ 県サッカー協会スポーツ医学委員の小松 猛氏より「サッカー選手の脳震盪について」というテーマで講義がありました。JFAでも育成年代でのヘディング習得のガイドラインが作成されており、大変興味深い内容でした。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインでの開催でした。4時間程の短い時間ではありましたが、滋賀県のベクトル合わせの一助になったのではと思っています。また次回も是非ご参加下さい。

フットボールにおけるVAR (ビデオアシスタントレフェリー) のこれから

プロフェッショナルレフェリー 今村 義朗



2020年、本格的なコロナ禍に入り日常が制限され、人と人が直接対面しコミュニケーションを取れない、またスポーツや音楽イベント、旅行など容易にできない時代となりネガティブなことが多くなっている。その中で、日本のフットボールのあり方もVARが世界的に導入され、目まぐるしく変化している。2018年ワールドカップロシア大会で導入されてから急激に世界に広まり、今や世界大会=VARになった。日本協会は、2019年IFABからデービットさんを迎え、日本のトップレフェリー15人を選定し資格を必要とするVARの準備を進めてきた。資格を得るには、VAR有りのプラクティカルな試合や練習試合などで主審とVARを何試合か経験し、その映像をIFABに提出しなければならないため容易なことではなく、1年間研修など重ねて資格保持に至った。

私自身2019年のJ1リーグシーズンまで、T社に勤めながらの審判活動をしてきたが、2020年1月末で退社して、2月からプロフェッショナルレフェリーとして契約させていただけることとなった。ファーストポイントが、日本でVARを本格的に導入されお披露目となる、FUJI XEROX SUPER CUPであった。横浜・Fマリノ

スvsヴィッセル神戸 入場者数51,397人（歴代3位）その試合で記憶に残るのが、PK戦に入り3人目以降9人連続で外すという稀に見ないPKだった。その試合以降コロナウイルスでJ1リーグが延期になり、記憶に残らない試合へとなってしまった。

コロナ禍で大変な中、J1リーグと日本協会審判部は審判に対して毎試合、PCR検査や抗原検査を準備して審判の安全、また世の中の安全を守ってきたが2020年シーズンVAR導入が見送られ、2021年シーズンへと延期された。

2021年本格的に始動したVARは、フットボールにおいては欠かすことのできない存在となっている。VARが本格的に始動してから1シーズン、良かったところもあったがまだまだ課題や修正すべきところがある。それを確かめチャレンジするために、VARトレーニングが行われるJFA夢フィールドに新幹線に向かっていく。2022年はさらなる進化を求められている。

Keep looking don't settle! 探し続けなさい。立ち止まってはいけないとAppleの共同創業者スティーブ・ジョブズさんの言葉通り、私自身も考え探しチャレンジし続けたいと思う。



キッズ委員会より

委員長 杉本 聡

キッズの取り組みはFIFAワールドカップ2002日韓大会の翌年から開始された、キッズプロジェクトはあと少して20年を迎えます。現在、キッズでは3本柱である巡回指導、キッズフェスティバル、キッズリーダー講習会を中心に取り組んでいます。

まず一つ目に、巡回指導については、県内全域において幼稚園に巡回し、年間約250園、約1,500回実施しており、鬼ごっこ、ボールを使ったあそび、動きづくり、ゲームを実施しながら園児に体を動かすことの楽しさを体験してもらっています。

次に二つ目キッズフェスティバルでは、年間6回程度実施し、ゲーム形式で多くのチームとの交流戦を実施しています。近年では、3vs3や4vs4の少人数制に切り替え、少しでもボールに触れる機会を増やし、サッカーの楽しさを体験・体感できるよう取り組んでいます。

最後に三つ目キッズリーダー講習会では、キッズの特徴を理解し、年代に応じた言葉かけ、関わり方を学ぶために受講していただいています。関わる大人、キッズに対する理解者を増やすことに取り組んでいます。

こうした3本柱の取り組みは、キッズは遊びや運動することで、様々な動作が自然に身に付き、身体の成長に繋がります。キッズは全てにおいて原点であると考えています。社会性を身につけること、そして体を動かす、スポーツ、サッカーが好きになるキッズを普及・育成し続け、将来は日本のスポーツ、代表チームの飛躍に繋がっていきたくと考えています。

皆さん、今一度キッズとの関わりを持っていただき、キッズが持っている良さや能力を引き出していただければ幸いです。

Soccer News SHIGA

〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地 TEL:077-585-0982 FAX:077-585-0983

2022.3 No.64

発行 公益社団法人 滋賀県サッカー協会
責任者 専務理事 前田 康一
shigafa@oregano.ocn.ne.jp
https://www.shigafa.com/

感謝の心

公益社団法人 滋賀県サッカー協会(SFA) 会長 森津 陽太郎



昨年、日本サッカー協会の100周年にあわせて「特別表彰」、また、文部科学大臣から「生涯スポーツ功労者」の表彰を受けました。いずれも審判員、審判指導者、Jリーグのマッチコミッショナー、日本サッカー協会審判委員会副委員長や滋賀県サッカー協会役員での活動が認められたことによるものだと思っています。このような賞を頂いたことに、活動を支えてくれた家族やいろいろな場面で応援してくださったすべての方々に感謝をしたいと思います。ありがとうございました。

サッカーに関わる活動の中で印象に残っているのは、やはり審判として活動した時期のことです。1991年から1994年の4年間、国際審判員として活動させていただきました。海外での審判活動はもちろんですが、審判活動の合間にその国の様子を見ることができました。アジアクラブ選手権の試合が行われた韓国と北朝鮮との国境の町カンヌンでは、すごくきれいな海岸に延々と鉄条網が張られ、同じ民族でありながら国としての分断があることを肌で感じました。また、今年ワールドカップが開催されるカタールに行った時には、審判控室の前に軍隊の兵士が銃をもって警備をしていました。

もう一つは、Jリーグがスタートした1993年には担当主審としてJリーグのスタートに立ち会う事ができたことです。満杯のスタンドで選手の生き

生きとしたプレーぶりに審判をしながら興奮を覚えたことが今でもよみがえってきます。このような経験は審判員としてだけでなく人間として大きくしてくれる経験だったなと思っています。日常生活では教員としての職務がありましたが、教員としての幅もひろげてくれたのではないかと思います。こういった経験をさせていただいたことにも心から感謝したいと思います。

今、世の中は新型コロナウイルスの感染により日常でない生活が続いています。サッカーに関わる活動も以前のようにできていません。改めて新型コロナ前の日常の生活が懐かしく、また前のような生活に戻れることを信じてサッカーに関わる活動も含めて毎日の生活に臨みたいと思います。今回の表彰は、そういったいろいろなことを考えさせてくれる機会でもありました。改めてありがとうございます。



令和3年度 文部科学大臣表彰	
生涯スポーツ功労賞	森津 陽太郎

令和3年度 (公財) 滋賀県スポーツ協会表彰	
スポーツ功労賞	村井 滋一
スポーツ奨励賞	岩崎 崇

JFA 100周年記念事業 受賞者一覧 (滋賀県関係 敬称略・順不同)

【特別功労表彰】	
公益社団法人 滋賀県サッカー協会	
森津陽太郎	井原 正巳 上野 展裕 狩野 倫久 里内 猛 佐野 智之 望月 聡
今村 義朗	西岡 昌弘 大谷 未央

【功労表彰】 個人	
今村 博治	高木 和道 二村 昭雄 堀内 迪弥 石田 和成 泉 憲舟 岩崎 崇
梅田 英幸	大久保正充 大谷 浩志 奥村たき江 奥野 高明 川崎 寛 木村 建一
倉本 正仁	小嶋 孝 権田 五仁 城山 昌人 杉本 聡 世古宗 泉 園田 徳治
高田 和則	田中 秀敏 力石 隆治 寺嶋 昭夫 鳥家 浩司 中尾幸太郎 中村 圭一
中村 正人	中山 勝則 檜山 秋彦 福島 隆志 布施 直信 堀出亀典嗣 前田 康一
増山 達哉	松本 茂 光吉 英宣 藪下 和彦 山本 佳司 渡邊 建一

【功労表彰】 団体	
MIOびわこ滋賀	滋賀サッカークラブ びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部
滋賀県高等学校体育連盟	滋賀県中学校体育連盟

【感謝表彰】	
うえの賢一郎	松永五九雄 (株)滋賀銀行 滋賀県 長浜市 近江八幡市 草津市
守山市	甲賀市 湖南市 東近江市 豊郷町 SGホールディングスグループ陸上競技場
大津市皇子山総合運動公園陸上競技場	甲賀市陸上競技場 滋賀県立彦根総合運動場陸上競技場
東近江市布引運動公園陸上競技場	野洲川歴史公園サッカー場



第70回全日本大学サッカー選手権大会を終えて

びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部 コーチ 石間 寛人

新型コロナウイルスの影響を受け、今シーズンの関西学生サッカーリーグは過密日程での戦いを強いられながらも、本大会への出場権を獲得しました。

初戦の北海道地区第一代表の札幌大学戦では、相手に先制点を許すも、2023年ヴィッセル神戸加入内定の泉柊椰（3年次生）や、大会直前にTOPチームに昇格した江口隆史（4年次生）、大嶋佑（4年次生）の活躍もあり、4-1で勝利しました。

2回戦の早稲田大学戦でも相手に先制点を許し、前半は硬さがぬぐえない苦しい展開でした。後半からようやくギアが入り早々に追いつき延長戦へ。一瞬の間をつかれ再び突き放されるも、途中出場の大嶋が押し込み2-2でPK戦。1年生GK倉原将が1人目のキッカーをストップする活躍もあり、全国大会で5年ぶりに関東勢に勝利を収めました。

準々決勝の明治大学戦では、ここまでの2試合とは異なり、立ち上がりから主



導権を握って試合を進めるも、相手に2本のミドルシュートを決められ、0-2でハーフタイムを迎えました。2人の選手交代を行い得点を奪いに行くも、またもワンチャンスで決められ0-3。ボールを握り最後まで相手ゴールを目指しましたが、勝負所で決めきる決定力の差に泣きました。

今大会、ベスト8敗退となりましたが、自分たちから主導権を握るサッカーは関東勢相手に通用する部分はありませんでした。法政大学に1-6で敗れた2年前の総理大臣杯や延長戦の末に敗れたインカレの筑波大学戦とは違い、先に通じる戦いができたと感じます。しかしながら敗れた事実は真摯に受け止め、日々のトレーニングで差を埋めていきたいと思えます。

最後になりましたが、びわこ成蹊スポーツ大学サッカー部へ日頃からご支援いただいております滋賀県サッカー協会をはじめ、多くの指導者の皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

第30回全日本大学女子サッカー選手権を終えて

聖泉大学 女子サッカー部 監督 後藤 剣

【成績】 2回戦 東北第2代表 仙台大学と対戦 0対0 PK戦 3対0で敗退

3年連続で全日本大学女子サッカー選手権に出場することができました。コロナ禍の状況で、関西学生女子サッカー春季リーグは未消化の試合もあり7位で終わりました。それにより、入替戦へ。何とか勝利することができ、1部へ残留することができました。

近年、激戦・拮抗した関西学生リーグですが、関西学生女子秋季リーグでは、創部以来、初のリーグ優勝という結果で終わることができました。それにより、第30回全日本大学女子サッカー選手権という記念大会へは、関西第一代表での出場が決定。

大会は、一回戦シードとなり、東北第2代表の仙台大学と関東第6代表の東京国際大学の勝者と対戦が決定し、仙台大学との対戦となりました。仙台大学は、シンプルにスペースへボールを配球する戦術でした。初戦を戦ったチームとの緊張感に差があったようにも思いますが、前半はなかなかリズムを作れず終了。後半に入り、メンバーを入れ替えたこともあり、ペースを掴んではいましたが、なかなか得点が奪えずに終了し、PK戦となり敗退という結果に終わりました。コロナ対策に伴い、有観客ではなく、チーム関係者等々の来場可能な大会となりましたが、多くの方々に足を運んでいただきました。ありがとうございました。

今大会は、昨年優勝チームで今大会の優勝候補でもあるチームがPK戦にて敗退するなど、波乱の多い大会だったと思います。

今大会での実感や確信、悔しさを次年度の活動に活かしていくことで、卒業する4回生や悔し涙をぬぐってきた卒業生の思いに応えていくことも、1つの大切な伝統であり、思いたと感じております。

更に進化することも忘れず更なる飛躍を求めて頑張っていくと思えます。

最後に、滋賀県サッカー協会をはじめ、多大なるご支援とご協力を頂きましたこと、誠に感謝いたします。今後も滋賀県サッカー協会の発展に貢献できるよう、精一杯努力しました共に皆様と歩んでいきたいと思えます。ありがとうございました。



第100回 全国高校サッカー選手権大会を終えて…

草津東高校サッカー部 監督 牛場 哲郎

【成績】 1回戦 草津東 0（前半0-1、後半0-3）4 前橋育英（群馬県代表） 1回戦敗退

第100回を迎えた全国高校サッカー選手権大会に、滋賀県代表として2年ぶり12回目の出場となりました。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響でサッカーの活動が充分にできない期間がありました。本校だけでなく、全国的に一生に一度の高校サツ

カーの時間を奪われたことは、痛恨の極みであったろうと感じております。多くの方々の情熱と努力によって、県予選大会、全国大会を開催していただいたことに深く感謝致します。

開会式は、12月28日に新国立競技場にて、実施していただき

した。新たな高校サッカーの歴史を刻むピッチを、選手たちが堂々と行進してくれました。

翌日の12月29日、1回戦は熊谷スポーツ文化公園陸上競技場にて、群馬県代表の前橋育英高校との対戦でした。前橋育英は大会直前にプレミアリーグ昇格を決めるなど、チーム力にレベルの高さを伺えました。試合に挑むにあたり、守備的な戦いを強いられることを想定していました。相手より中盤の人数を増やし、ミドルサードでボールを奪い、カウンターを仕掛ける狙いでゲーム臨みました。前半の6分に相手GKのフィードから相手FWがDFラインを抜け出し、先制点を許してしまいました。守備から攻撃への移行において、中盤での厚みを形成したかったこちらの狙いの裏側をついた悔やまれる失点でした。それ以降、選手たちは慌てることなく、ゲームプラン通りにひたむきに戦ってくれました。0-1のまま迎えた、後半残り15分で前線の選手を交代し、得点を奪いに行きましたが、チャンスを決めきれず、逆に失点を続けて許してしまい、0-4で試合終了となりました。

優勝経験もあり、全国でも屈指の強豪校である前橋育英高校との対戦を通じて、選手たちは最後まで諦めず、勇敢に戦ってくれました。チーム力を高めるために日々の努力を積み重ねてくれたことや、勉強と部活動を両立し、ここまで連れて来てくれた選手たちを誇りに思います。新チーム79名はこの悔しさをバネに活動

を始めています。今年こそ、プリンスリーグ昇格、インターハイ、選手権出場し、全国ベスト8以上を目指して頑張ります。

最後に、大会出場に際しまして、滋賀県サッカー協会をはじめ、滋賀県民の皆様から多大なるご支援とご協力をいただきましたこと、遠方にもかかわらず現地まで足を運んでいただき熱いご声援を送っていただきましたこと、誠に感謝致しております。2025年滋賀国スポ強化拠点校として、今後も滋賀県サッカー協会の発展に貢献できますよう、精一杯努力致します。



第45回全日本少年サッカー大会を終えて

アミティエ・スポーツクラブ草津 山添 啓太

昨年12月25日～29日に鹿児島県で開催されました、第43回全国少年サッカー大会に、2年ぶり5回目の出場を果たすことができました。

12月25日朝に出発し、鹿児島まで新幹線で移動し、移動の疲れもなくリラックスした様子で開会式がコロナ対策で行われない為、午後からは鹿児島観光で選手たちは鹿児島の地を満喫した様子でした。

過去4回の全国大会ではベスト16が2度、グループリーグ敗退が2度、ラウンド16に進んだ大会はどれもJクラブの下部組織相手に大敗を決する結果で悔しい思いをしてきました。

今回はグループリーグではJクラブの下部組織が3チーム同組という組み合わせとなり、過去最高成績のベスト8を目指して、クラブの歴史を塗り替える為に、チーム一丸となって準備してきました。

翌26日に行われた、第1戦は山梨代表・ヴァンフォーレ甲府と対戦しました。選手たちは雰囲気は飲まれず互角の立ち上がりでしたが、徐々に相手にボールを握られて攻め手にかかる厳しい展開の中、守備も粘り強く耐えてくれて迎えた10分主将の井上選手がワンチャンスを物にして先制に成功。しかし前半を無失点で迎えたいと保守的になり18分に失点をして前半同点で折り返す展開でした。ハーフタイム「ぜんぜん俺たちやれているぞ。」など前向きな声がかかる姿をみて問題ないと後半のピッチに送りだしました。

結果、後半途中出場の長尾選手の2得点で第一戦を勝利でつかみ取ってくれました。

第2戦目は徳島代表・徳島ヴォルティスと対戦しました。

技術が高い選手や身体的に素晴らしい能力を持った選手が多く、前半で0-3の苦しい展開で前半を折り返し、ベンチの雰囲気は諦めかけている選手もおり2年前と逆の状況に立たされている事に気がつきました。

2年前の浦和レッズ戦、前半3-0のリードで前半を折り返し、早々に勝ちを意識してしまい後半に相手チームの猛攻を受けてしまい、結果3-2と苦しい試合となった経験を選手たちに伝えました。「20分あれば3点差はひっくり返せる事」「滋賀、チームを代表して戦うなら最後までやりきる事」選手たちは気持ちを切り替えて後半のピッチに立ちました。

32分、34分、39分と点数を重ねて同点で迎えた41分、キーパーと1対1の場面で逆転か？というシュートはキーパーの好セーブに合いそのままカウンターで失点し終了のホイッスルが鳴りました。まさに天国と地獄、サッカーの怖さを味わった瞬間でした。

第3戦目はグループリーグ突破には2点差の勝利しか可能性が無い状況でグループ1位の大分代表・大分トリニータとの対戦でした。

「クラブの歴史を変える」選手は最高の準備とモチベーションで大一番を迎えました。

立ち上がり3分に山元選手のゴールで幸先よく先制したものの、相手の固い守備陣に苦しみ前半を終え、攻められているものの点が遠い…点を取らないと行けない状況に焦りが産み立て続けに失点をしてしまい結果は1-3の敗退でグループ3位で終わりました。

選手たちと目標に決めた「クラブ史上最高成績」という目標には届きませんでした。滋賀の街クラブでもJクラブと対等に戦えることを選手達は証明してくれました。

世界に通用する選手の育成を目標にクラブ創設12年で全国大会に5度出場させていただき選手にとっても、指導者にとってもたいへん貴重な経験をさせて頂きました。

今回の経験を活かし世界の舞台に羽ばたく選手が出て行くことを期待したいです。さらにクラブとしてもまた、このような素晴らしい舞台に立てるよう「No, Fun No, Football」「常昇・常勝・常笑」をモットーに日々世界に目を向けながら日々成長していきたいと思えます。

最後になりましたが、関係者各位の皆様には様々のご支援ご声援を承りました事を厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

